「コシヒカリ」の湛水表面直播（鉄コーティング）栽培基準例（JAくろべ版）

500kg穫り収量構成の目安

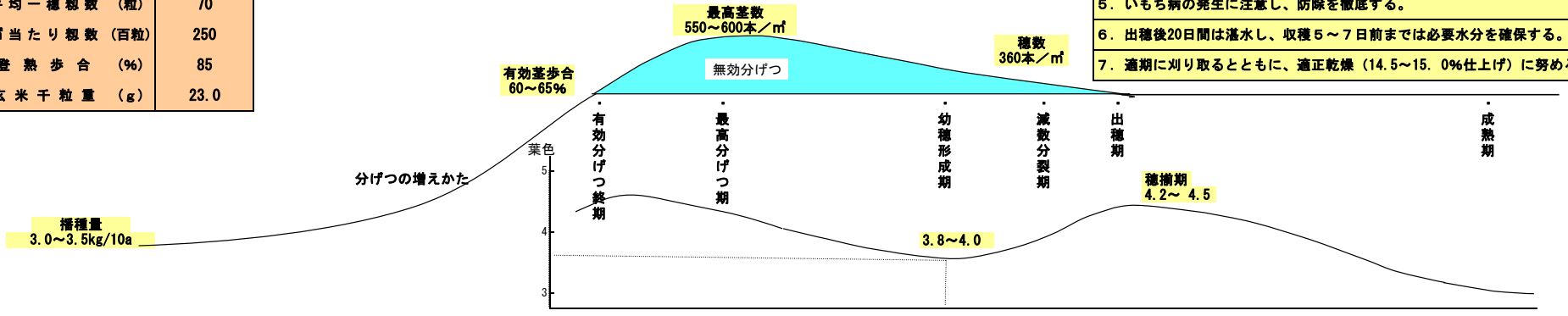
収量構成	目安
㎡当たり最高茎数（本）	550～600
有効茎歩合（%）	60～65
㎡当たり穂数（本）	360
平均一穂籾数（粒）	70
㎡当たり籾数（百粒）	250
登熟歩合（%）	85
玄米千粒重（g）	23.0

土壌区分別施肥設計（kg／10ａ）

土壌区分		三要素合計 窒素	リン酸	加里
沖積	CL	4.3 ～ 5.0	7.0 ～ 9.0	8.0 ～ 12.0
	L	4.9 ～ 6.1		
	SL	5.7 ～ 6.7		
洪積	L～CL	4.9 ～ 6.3		

栽培のポイント

1．均一な苗立ちを確保するため、ほ場の均平に努める。
2．播種量は2.5～3.0kg/10aとし、㎡当たり60本程度の苗立ちを確保する。
3．適正な中干しにより根の活力を高めるとともに、過剰分げつを防ぐ。
4．出穂30日前から入水し、幼穂形成期の葉色を3.8～4.0に誘導する。
5．いもち病の発生に注意し、防除を徹底する。
6．出穂後20日間は湛水し、収穫５～７日前までは必要水分を確保する。
7．適期に刈り取るとともに、適正乾燥（14.5～15．0%仕上げ）に努める。



月日	4月	5月	6月	7月	8月	9月
			6/12 6/29	7/19 7/31	8/10	9/21
生育期区分		播種期 出芽・苗立期	有効分げつ期	無効分げつ期 幼穂形成期	穂ばらみ期 登熟期	
水管理		湛水管理	飽水管理 浅水管理（本葉1葉期） 中干し	間断かん水 出穂30日前からの入水（ヒタヒタ水）	出穂から20日間は湛水状態を保つ	間断かん水（落水を急がないように）

栽培管理のポイント

- 浸種積算六〇度の種子に鉄コーティングする。
- 種子は乾籾で一〇アール当たり二．五～三．〇kgとする。
- 出芽揃いをよくするため、ほ場の均平に努める。
- ●基肥窒素量は移植より一〇アール当たり一・〇～一・五kg減肥する。
- ●施肥溝が残る程度のほ場の硬さで播種する。
- 播種同時又は直後に除草剤を散布する。
- ●播種後五～七日間は湛水管理を行う。
- ●出芽が確認されるまで、除草効果を維持するため、足跡の水が切れないように飽水管理を行う。
- イネ一・五～二・〇葉期に二回目の除草剤を散布する。
- ●六月上旬に溝を掘り、入排水の効率化に努める。
- 六月中旬頃、葉いもちの予防剤を散布する。
- ●中干しにより、根の活力を高めるとともに、過剰分げつを抑制する。
- 中干し後は、間断かん水を行う。
- ●出穂三十日前からの入水（ヒタヒタ水）により、葉色低下を防ぐ。
- ●幼穂形成期の葉色は三・八～四・〇に誘導。
- 穂いもちの出穂直前・穂揃期の二回防除を確実に行う。
- カメムシ類の穂揃期防除を確実に行う。
- ●出穂から二十日間は湛水状態を保つ。
- 穂揃期の葉色は四・二～四・五に誘導する。
- フェーン時は事前かん水して、品質低下を防ぐ。
- 刈取り予定日の五～七日前までかん水する。
- ●籾の黄化率八十五～九〇%程度で適期に刈り取る。
- 一・九㎜のふるいで選別する。
- 一四・五～一五・〇%の適正水分に仕上げる。